

日出晴夫の

「な話」



日出 晴夫

中小企業診断士。阿南市在住

<http://www.facebook.com/haruo.hinode>

盛夏です

暑き日々が続いています。読者の諸兄はいかがお過ごしでしょうか？

阿南市では、幸いにも、本年は、現状、大きな水害被害には遭遇しておりません。幸運に感謝しつつも、いづれ遭遇するであろう、東南海地震の惨禍を思いつつの日々を過ごしております。大自らの脅威には謙虚に、また、悠然と立ち向かいたいものです。

そして、本年も例年どおり、先祖祀りの頃『お盆』の頃が巡ってきます。

若かりし頃は、一応、弁証法的唯物論の立場に依拠

していた（していた振り？）もので、お盆の行事は、ややもすると「面倒臭い」ものだったようです。

しかしながら、大事の前には、先祖の墓の前に立ち、大願成就を祈るのが常でした。不思議なもので、その際には、唯物論論争などとは無縁の世界に住んでいたのでしょう。

お盆の頃には、また、終戦記念日の日程が重なります。例年のNHK、民

放の終戦特集が見られることでしょう。本年

は特に、憲法改正という大きな課題が私達の眼前に迫ってくる可能性もあります。

思えば、戦後民主主義教育の発展期に青春を過ごし、停滞期に職業生活を開始、衰退期とともに、独立コンサルとなったのが、私の人生だったのでしょう。近年、慣れ親しんだイデオログの皆さんの終焉も見ることが多くなりました。

近日、永六輔、大橋

巨泉、というお二人の訃報を聞きました。イデオログという訳ではありませんが、一定の影響を受けたのも事実です。合掌。

残りの人生、悔いのない形で送りたいと思っております。お盆ということで感傷的な出だしとなりましたが、今後とも宜しく願います。

前向き人生の話

図表①は、近刊の書籍の表紙です。私としては、三冊目の発刊となります。共著ではありませんが、自身の勉学の成果が見えるものとして、数年に二冊の割合にて取り組んでいます。このコラムでも本年二月号にも取り上げています。ここでは、やや詳細に紹介させていただきます。



図表①；近刊です。Amazonでも売ってます。

全体主旨

本書の書名は「エネルギーミックス」としています。政府の2016年度の経済産業省の電源構成に関する予算の名称なのです。時代にマッチさせるということ。「エネルギーミックス」の普及に協力する意味においても名称を使わせてもらったのです。

近年異常気象で雨天が多く、台風、竜巻、洪水、さらに地震と災害が相次いでいます。

其の原因は、つまるところ、人間の出す排気ガス「二酸化炭素」による地球温暖化が原因であるといわれています。

私達、中小企業診断士グループは今年の研究テーマとして「エネルギーミックス」をとりあげていたが、内容を突き詰めると、これは「地球温暖化」を食い止めることにつながり、今日の時代に最も適した研究と自信を持って進めてきたのです。

本書はまだ不十分ではあるが、その研究成果の第1段階として取りまとめた報告書という形になっています。

阿南高専、精神的原点

第5章五節のテーマです。

この節にあつては、再生可能エネルギーの一つ、小水力発電事業の徳島県阿南市での具体的事例の紹介をしています。

阿南工業高専は、この事業の歴史的風景画として存在します。

例えば、筆者が、この学窓を出立してより数十年が経過しているのです。この教育制度から巣立った卒業生も着実に社会的地位を獲得しています。チャレンジ精神溢れる取り組みと果敢なアントプレナーシップ精神は、私たち高専OBの原点とも言えるのです。

再生可能エネルギー研究会

ここでは、阿南高専での再生エネルギー研究活動について

て紹介しています。

① 二人の特命教授



鶴羽 正幸 氏



宇野 浩 氏

図表②；二人の特命教授

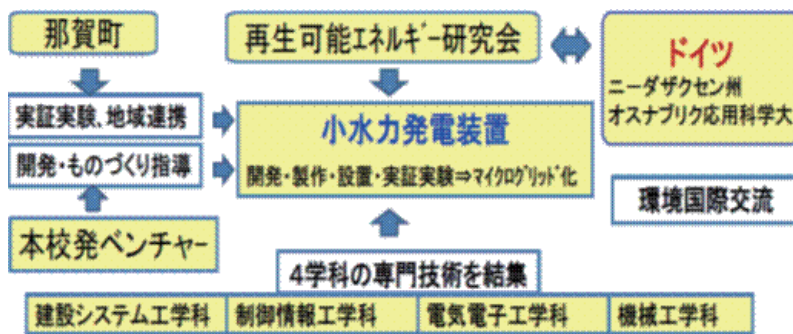
図表②は、阿南高専特命教授の鶴羽、宇野氏の近影である。お二人とも、阿南高専草創期のメンバーであり、大手民間企業の勤務経験の後、阿南高専の特設講座の担当教授として着任・活動をされておられます。

平成23年、お二人を中心として、阿南高専内で再生可能エネルギー研究会（以下、当研究会という）の活動が開始されました。主宰者は、宇野教授でした。鶴羽教授は、メンバーとしての活動を続けることと

なりました。（鶴羽教授は、（株）バンブーケミカル研究所の代表者として、実際の産業機器の開発・販売を継続していくこととなったのです。）

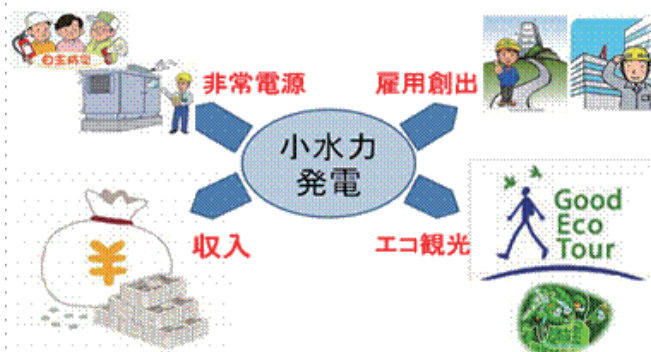
当研究会の活動イメージを次図（図表③）にまとめてみます。

多方面、多彩な活動に着目いただきたい。



図表③；阿南高専再生可能エネルギー研究会活動イメージ図

大きな社会的影響力をもたらすことが予想されます。これらの再生エネルギー研究活動がどのようなダイナミックな展開を見せるのでしょうか？以下、次号。



図表④；小水力発電イメージ図

② 小水力発電について（図表④）では、小水力発電についての基本イメージを図式化しました。徒に理想を追うのではなくバランスを持った事業推進が必要ということです。

比較的に経済効率が高く成功裏に推移した場合には、